

印刷して学生
みなさんで
お読みください！

全国大学生協連
九州ブロック
執筆者：井上愛理
協力：九州工業大学生協
発行日：2025年11月19日

九州工業大学生協 「CAM勉強会」「学委合宿」

第032号
(通算617号)



組織運営

取り組み概要

【CAM勉強会(飯塚学生委員会)】
2025年7月22日 @飯塚キャンパス教室
【学委合宿(戸畠学生委員会)】
2025年8月2日 @グローバルアリーナ

概要：九州工業大学生協には2つのキャンパスにそれぞれ学生委員会がある。本NEWSでは、それぞれの学生委員会で実施された学びの場について書く。

各学生委員会で拡がる学びの場

POINT.1

大学生協/学生委員会を学ぶ (CAM勉強会)

学生委員会(通称:CAM)の1年生は生協の存在意義や活動に関する知識が少ないという現状を踏まえ、部会中に勉強会が実施されました。

学生事務局から「大学生協とは/学生委員会とは」、専務から「職員の想い」、委員長から「企画運営」の提起がありました。

事後アンケートには、「他の生協の活動を知れたことでアイデアが湧いた」「今まで流れでやっていた企画の進行について、目的や理由などが明らかになった」等、モチベーションが上がったと評価する声もありました。



POINT.2

「企画が生まれるまで」を考える (学委合宿)



学委合宿では「企画ができるまで」というプログラムがありました。企画は「組合員の生活をよりよくする」ための手段であり、学生委員会にとって企画はゴールではなく手段であるという点が強調されており、非常に印象に残りました。

また、提起後の企画づくりのグループワークでは、必要だが未実施の「共済」関係へのアプローチ方法を考えることができました。

企画ありきではなく、現状・理想から企画を考えることを是非改めて意識してみましょう！

POINT.3

分断なく、これまでを引き継ぐ (学委合宿)



学委合宿の後半には、企画の紹介が行われました。その際には、単に昨年度実施された企画を紹介するのではなく、数年前に遡り、現在は実施していない企画の紹介や、スケジュール・内容面の変遷も共有されていました。

新型コロナウィルス感染症流行の影響で、企画の有無や形態が変更になった事例は多いと思います。

毎年メンバーが入れ替わる学生委員会。これまで蓄積したものを次の代に引き継ぐ場を皆さんもつくってみませんか？

